

議会だより

令和5年2月20日発行 / No.152



the most beautiful
villages in japan

原村
長野県



「たくさんケガして遊んだ中庭」 原小学校6年 行田 陽翔さん

2022年
12月定例会
から

住民の声を村政へ 2

定例会審議から 4

一般質問 8

中学生と原村を語ろう 14



原村議会の情報は
ホームページからも
ご覧いただけます



「マチイロ」
アプリからも
ご覧いただけます

住民の声を村政へ



村議会ではこれまで議会だより特集にあわせて住民の方々から多くの意見を伺ってきました。幅広い年代、また様々なお仕事や家族構成の皆さんからいただいた貴重な声を村政に活かすべく、担当課・係と検討、提言の機会をもちました。今号ではその中から「防災」と「子育て・教育」についてお伝えします。



子ども・子育て支援センターが開設されるけれど、原っ子広場はどうなるの？



センターに移して継続します。迎え待ちには中央公民館、運動したい子は社会体育館・小学校校庭、勉強は図書館の閲覧室、それぞれが利用できます。

【生涯学習課】



ギカイのシテン

保護者への十分な説明と理解を得ること。今後、変更されることがあれば、支援員と十分な協議をして事業を実施することが必要である。

防災

電気が途切れてしまうと、水道や通信にも障害が発生し、生活に大きな支障が出ることになります。断線を防ぐため伐採等の適正な管理を行い、関係課、中電、相互援助団体と連携して住民生活を守ります。【情報防災係】

ギカイのシテン

電線等の断線を未然に防ぐための計画的な点検と管理が必要。また、避難所運営や早期ライフライン復旧ができる体制を整える必要がある。

災害時の停電が心配です。倒木で電線が切れることがないように、管理をしてほしい。



いざという時に頼りになるのはご近所同士だと感じています。普段からお付き合いを大切にしたいです。



災害が起きたとき、村内でどのあたりが危険なのかもう一度確認する必要がありますね。



大規模災害では公助の機能が制限されるため、家族やご近所との助け合いが必要です。自助、共助については、村の広報誌などで周知に務めていきます。

【情報防災係】

ギカイのシテン

災害時には食料・飲料・生活必需品などの「最低3日分」の備蓄が必要となる。自主防止組織の活動支援や防災リーダーの育成、避難行動支援者の見直しが必要である。

土砂災害の警戒区域及び特別警戒区域については、ハザードマップを全戸にお配りしてあります(平成29年4月)。また、危険箇所点検結果を地区内で共有することや防災訓練での周知に努めます。

【情報防災係】

ギカイのシテン

自宅がどのような場所にあるのか知ること、安全な避難場所、避難経路について、行政側の正確な情報提供が必要である。

コロナ禍で頻繁に洗濯する必要からジャージで授業を受けています。もう少し着やすい制服を考えてもらえませんか。



中学校生徒会から制服についての話は聞いています。これまでの制服を見直す、また機能的で着心地も良い制服を検討する機会になると思っています。【子ども課】

ギカイのシテン

制服の必要性について、生徒、保護者、学校が協議できる場を持つことが大切である。

地域の人たちが参加する「学校応援団」がもっと活用されたいと思います。

ボランティアを申し出ていただいた方と学校側のすり合わせに試行錯誤している現状があります。今後はコーディネーターさんに調整をお願いしていく予定です。【子ども課】

ギカイのシテン

コーディネーター設置には、責任を明確にし、ボランティアではなく、正規の人材を確保すべきである。

定例会の概要

第4回定例会は、11月30日から17日間の日程で開催された。燃料高騰による影響と柏木区橋の架け替え工事費の増額補正、諏訪中央病院組合規約の一部改正、職員の定年年齢を令和5年度から段階的に65歳まで引き上げる条例の一部改正など、村長提出議案22件を可決。その他陳情4件、議員提出議案4件を可決、1件を否決した。

第1回臨時会では、原村農業者緊急支援給付金支給事業（青色申告対象費用の2%補助、上限50万円）に、荷造運賃手数料を新たに対象とし1%を上乗せ補助、上限70万円とする改正、子育て世帯等臨時特別支援、省エネ家電製品買換え補助金などの補正を可決した。

諏訪中央病院

茅野市国保診療所を病院組合に

茅野市国保診療所（リバーサイドクリニック、泉野診療所、北山診療所）の経営を茅野市から諏訪中央病院に移譲することに伴い、事務を共同処理するための規約変更が必要となった。これまで3診療所の医師、看護師の確保は諏訪中央病院に委ねており、運営の主体について協議する中で諏訪中央病院が直接運営するのが適切であるとなった。

本定例会審議においては国保事業を組合に組み込むことに問題がないか（正当性の確認）、正副組合長会議、組合議会全員協議会の内容を確認、併せて規約変更した場合の原村への影響や負担についても確認を行った。

原村への影響・負担は

ふれあいの里に関する覚書には、「施設及び付属設備の改修に要する経費は茅野市が負担する」と記されている。茅野市からは今回も同様の内容になるとの説明を受け、3診療所が移譲されることによる原村の負担増はないと確認した。ただし病院組合の経営方針に基づき、機能拡大整備をする場合の負担率は正副組合長会議で改めて協議するとなっている。今後の方針については、関係市村への丁寧な説明を行う必要がある。

また規約変更した場合、原村診療所の地域医療体制に影響がないことを確認した。

諏訪中央病院の成り立ちと運営

諏訪中央病院は昭和25年に開設されたちの町国保直営諏訪中央病院を前身とする。昭和28年、1町9カ村が運営する組合に病院経営を移譲、昭和33年には構成自治体の町村合併により茅野市、諏訪市、原村の2市1村が構成する組合立となる。



諏訪中央病院および諏訪中央病院看護専門学校、介護老人保健施設やすらぎの丘の運営については各事業から生ずる利益金その他収入をもって充て、不足するときは組織市村が負担（負担割合：原村11% 諏訪市4% 茅野市85%）することと定められており、介護老人福祉施設ふれあいの里については、組織市村で協議し、負担割合を定め負担することになっている。

(年額)

| 職名 | 改正前 | 改正後 |
|-----|----------|----------|
| 団長 | 199,200円 | 214,000円 |
| 副団長 | 135,600円 | 144,000円 |
| 分団長 | 90,000円 | 101,000円 |
| 団員 | 19,000円 | 36,500円 |

別に出勤報酬として、災害・訓練それぞれに支給する。

非常勤特別職

消防団報酬を改訂

原村特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁済については、消防団員の報酬額については消防長官通知「消防団員の報酬等の基準の策定等について」が発出され、消防団正副分団長会議にて検討。特別職報酬等審議会に諮問の結果、妥当との答申を得たことから条例の改正を行う。

なお条例施行日については、令和5年4月1日を予定している。

A Q A Q A Q A Q

なぜ消防団員の報酬のみ6市町村の平均で揃えるのか。報酬審議会の意見を頂き変更する。活動日数等異なる面もあり、すべての報酬が一律に6市町村の平均となることは考えにくい。

団員の引き上げ率が非常に高いが、国が示した額を適用した。全国的にこの金額以上の設定になる。

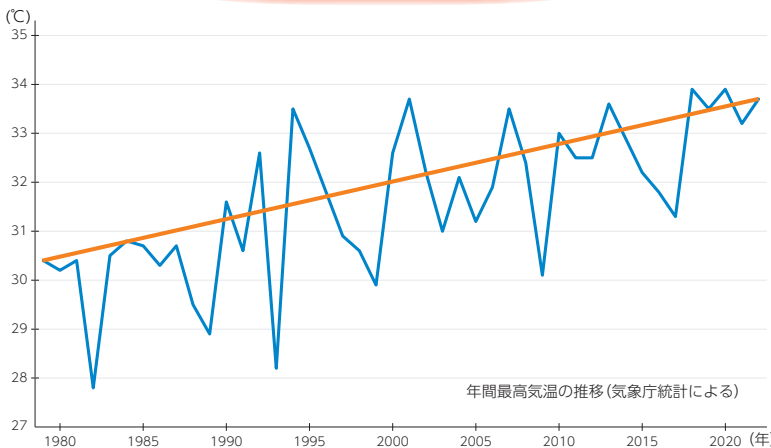
団長の命による警戒や訓練での出勤報酬1,000円とあるが、支払われる範囲は、月に2回の点検、分団ごとのポンプ操法の訓練には支給されない。秋季訓練等は団長命令があるため支給される。団員への報酬の支払いについて、「直接支払いを徹底する」とあるが、

今までは分団経由で本人に支払っていたが、今後は村から本人に直接支払う。手元に届いていたかは不明。全国的な消防団の処遇改善で、当村も準じて改正していく。

快適な学習環境を

小中学校のエアコン設置早まる

原村は暑くなっている！



予定を前倒しして設置

令和6年度稼働だった予定を前倒し、本年（令和5年）の夏休み中に工事・設置を行う。生徒たちは夏休み明けから使用が可能になり、冬季も暖房として使うことができる。

地球温暖化に伴う気温の上昇は近年著しく、原村においても30℃を上回る真夏日が珍しくなくなっている。これまで学校に冷房設備は設置されていなかったが、安全かつ快適な学校生活を送れるよう、村費でのエアコン設置を決めた（学校教育施設等整備事業債）。

賛否が分かれた議案等

12月定例会
審議結果



○は賛成、×は反対、△は趣旨採択又は一部採択に賛成、▽は退席、－は欠席、議長は可否同数時のみ裁決する。

| 審議結果 | 半田裕 | 中村浩平 | 宮坂早苗 | 佐宗利江 | 森山岩光 | 松下浩史 | 平出敏廣 | 北原貴穂 | 宮坂紀博 | 百瀬嘉徳 |
|--------|--|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 《村長提出》 | | | | | | | | | | |
| 第1回臨時会 | | | | | | | | | | |
| 議案第31号 | 令和4年度原村一般会計補正予算（第8号） | 可決 | ○ | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 第4回定例会 | | | | | | | | | | |
| 議案第32号 | 諏訪中央病院組合規約の一部を変更する規約 | 可決 | ○ | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 議案第46号 | 令和3年度子ども子育て支援センター建設工事変更請負契約の締結 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ |
| 《議員提出》 | | | | | | | | | | |
| 発委第12号 | 第9期介護保険制度改正に関する意見書案の提出 《提出者 社会文教常任委員会委員長 宮坂 紀博》 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × |
| 発委第13号 | 安全・安心の医療・介護の実現のため人員増と処遇改善を求める意見書案の提出 《提出者 社会文教常任委員会委員長 宮坂 紀博》 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ |
| 発議第7号 | 原村議会委員会条例の一部を改正する条例 《提出者 原村議会議員 北原 貴穂》 | 否決 | ○ | × | × | × | × | ○ | ○ | ○ |
| 《陳情》 | | | | | | | | | | |
| 陳情第12号 | 介護保険制度の改善を求める陳情書 《提出者 諏訪地方社会保障推進協議会 会長 毛利 正道》 | 採択 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × |
| 陳情第13号 | 日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める意見書提出 《提出者 原水爆禁止国民大行進原村実行委員 代表 菊池 敏郎》 | 趣旨採択 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × |
| 陳情第14号 | 安全・安心の医療・介護の実現のため人員増と処遇改善を求める陳情書 《提出者 長野県医療労働組合連合会 執行委員長 小林 吟子》 | 一部採択 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × |
| 陳情第15号 | 要介護1、2の人の生活援助等の介護保険給付を市町村の総合事業に移行すること等についての意見書提出に関する陳情書 《提出者 公益社団法人 認知症の人と家族の会代表理事 鈴木 森夫》 | 採択 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × |

要介護1、2の人の生活援助等の介護保険給付を市町村の総合事業に移行すること等についての意見書提出に関する陳情

国で、第9期介護保険制度の改正案が検討されている。内容は、要介護1、2の生活援助等を介護保険制度の給付対象からはずし、市区町村の総合事業に移行しようとするもの。今後、自治体の財政負担への影響、ケアプランの有料化や多床室料の新設など、利用者の負担が増加することが懸念される。経済的な心配をせず、サービスを利用できるよう改善を求めるもの。

反対討論

- ・要介護1、2の人を市町村の総合事業に移行するものである。財源が市町村になることは、財源の確保が難しい。他の事業と一緒にを行うなどして、運営をスリム化することができるのでは。

賛成討論

- ・要介護1、2の方達は、軽度の方が多い。国が支援体制を整えて地域の中で生活できるように支援するのは当然である。
- ・要介護1、2の方が総合事業に移行していくと言う事であるが、まだまだ本村でも体制が整っていない。予定している重層的支援計画が、整うまで、国がしっかりと支援するべきである。

陳情3件の内容を整理し、2件の意見書を提出した。

日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める意見書提出

今世界では、核兵器禁止条約の発効により核廃絶に進もうという方向に進んでいる。2021年1月22日発効の核兵器禁止条約を支持し、参加している。ロシアのウクライナ侵略で核兵器使用をプーチン大統領が威嚇するなど核抑止力の根拠が薄れた。核の傘論に立って日本政府は署名・批准をしないので一日も早く核兵器禁止条約に参加するよう国に対して意見書の提出を要請するもの。

反対討論

- ・日本周辺ではロシアの他に北朝鮮があり、盛んに核兵器とロケット開発をしている。この時期に核兵器禁止条約に参加することは非常に国を危くする。日本はアメリカの核抑止力の「核の傘」に入っている。

賛成討論

- ・核廃絶は多くの人々が望んでいる。そのプロセスとしての核兵器禁止条約の理念は共感できるが、安全保障という面で日本が置かれている外交的な位置づけなど様々な立場を考慮すると、今すぐ署名批准することはどうなのか。世界的に一日でも早く多くの国が核兵器禁止条約に署名批准することが人々の安心に繋がるということを考えれば、この趣旨には賛成したい。

新潟県の各地に**学ぶ**

社会文教常任委員会 視察報告

公共施設の複合的な利用と運営面の課題を目的に、令和4年10月31日から11月2日にかけて、新潟県三条市、十日町市、津南町、上越市を視察してきました。

図書館等 複合施設 まちやま(三条市)



図書館・鍛冶ミュージアム・科学教育センターの3つの機能を備える複合施設。近隣のまちなか広場や三条鍛冶道場と一体的なエリアになっている。

宮坂紀博 平日昼間に訪問したにもかかわらず、かなりの利用者があった。本館とホールを結ぶ屋根の下の広場や、あえて配管や鉄板を見せて工場を意識したデザイン。居心地や雰囲気もよい印象だった。

三条ものづくり学校(三条市)



閉校した小学校を三条市が民間企業のノウハウを活かしてリノベーション。管理運営委託して、伝統ある技術にデザインやアイデアを加え、三条のものづくり事業の発展に寄与する拠点となっている。

宮坂早苗 金属加工など世界レベルの技術が集積された地域。「働く、学ぶ、遊ぶ」をキーワードに、技術継承と次世代をつなぐ場として有効活用されていた。校庭ではドローンの飛行練習が行われていた。

農と縄文の体験実験館 なじよもん(津南町)



「縄文」「農業・食」「民俗」「自然」などの体験実習が数多く用意されている。復元された竪穴住居や町内出土の土器や石器が展示されている。

森山岩光 出土品の展示だけでなく縄文から現代までの生活様式の展示、体験コーナーなど設置、縄文時代の様子について深く触れられ、興味を抱かせるような導き方で、情報発信の工夫がされていた。

オーレンプラザこどもセンター(上越市)



季節や天候に関わらず子どもを安心して遊ばせることができる空間と、子どもの一時預かり室を併設。各地域の子育てサークルと連携している。

平出敏廣 年齢毎のスペースがあっても仕切りはないので自由に往来できるのが良いと感じた。親からの相談も相談室でなく、立ち話的に行われているとのこと。

半田 裕 センターの運営は地域の母親のみなさんが立ち上げた認定 NPO 法人が運営することにより、利用者の声がいっしょりと反映される施設になっていると感じた。

12月 定例会

一般質問

一般質問とは、議員が村政全般にわたり、執行機関である村に対して、事務の執行状況及び将来への方針などについて疑問点をただし、報告、説明を求めることです。
12月定例会では9人の議員が登壇し、村政課題への提言や質問を行いました。ここではその主な内容（質問と回答の要旨）を掲載します。

| | |
|--|--|
| <p>なかむら こうへい 中村 浩平 議員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校給食無償化を 2. 学校でのコロナクラスター発生防止対策を 3. 農業振興策の提言 | <p>ももせ かとく 百瀬 嘉徳 議員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 灯油高騰や原材料高騰に対して農家への助成 2. 公共施設駐車場管理 3. 中学校への外部指導者の導入 4. 教育関係施設への太陽光発電設備 |
| <p>きたはら たかほ 北原 貴穂 議員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 住民からの要望 2. 舟山十字路登山口 仮設トイレ試験設置の検証 | <p>はんだ ひろし 半田 裕 議員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども・子育て支援センターを拠点とした先進的な支援を 2. 子どもを真ん中にした応援体制づくりを |
| <p>もりやま いわみつ 森山 岩光 議員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 村長に就任し2期目の3年余が経過した。成果と課題、今後に向けての思いと抱負は 2. 子ども子育て支援センター開設に向けて（総括） 3. コロナと共生した新たな学校生活の現状と、見えてきた課題 | <p>まつした ひろし 松下 浩史 議員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 移住促進事業の進め方 2. 事業継承をどう支援できるか 3. 国・県の補助事業に対する支援 |
| <p>ひらいで としひろ 平出 敏廣 議員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和5年度予算の主たる考えは（重点施策の具体的内容） 2. 補聴器購入に村補助を 3. 文化財整理室周辺の整備は 4. 文化財整理室併設のJAのATM継続は 5. 小、中学校の不登校の現状と予防対策は 6. 通学支援便の置き去り防止対策は | <p>さそう りえ 佐宗 利江 議員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高校再編 2. 図書館の増床 3. 八ヶ岳まるごと収穫祭 4. 移住政策 |
| <p>みやさか さなえ 宮坂 早苗 議員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 物価高騰の影響を受ける高校生のお弁当食材費補助を考えては 2. 子育て全力応援宣言を行い、地域全体で安心して産み育てる応援と親との近居・同居のための新築・リフォーム補助制度、公営住宅の新設なども考えては 3. ゼロカーボンの取組みとして、省エネ生活の実現に向けた断熱リフォームの補助と給水スポットの設置に取り組む考えは 4. リユースの常時拠点整備を考えては | <p>一般質問は事前に質問内容を通告することになっています。 質問時間は1人につき質問答弁を含め60分以内で完了することとされています。 一問一答方式が採用されており、1項目につき2回まで再質問ができます。 一般質問全文の閲覧および検索は村ホームページから行えます。</p> <div data-bbox="172 1928 280 2033" data-label="Image"> </div> <p>議会議録 検索</p> |

教育

問 学校給食の無償化を

答 財政事情から難しい

問 給食は教育の一環であり、子供達の命を育むものである。私自身も原小・原中の給食職員の皆さんが、毎日、身を削って苦勞してくださったお陰で今の自分があると思っている。小中合わせて9年間の給食費は無償にすべきと考えるが。

教育長 県内でも幾つかの町村が無償化しているが、毎年3800万円の費用が恒久的に続くのは、本村の財政事情を考えると困難。

問 今、子供を産みや



中村 浩平 議員

農業振興

問 石捨場の設置・斡旋を村で

答 困難ではあるが検討する

すく、育てやすい環境を整えないと、さらなる出生率の低下が予測される。少子化対策、人口減少対策、若者の定住促進、あらゆる面で学校給食無償化は有効であると考えます。無

駄な補助金等を見直し、皆で力を合わせて実現させようではないか。

村長 議員言うように有効であると考えますが、村の財政事情を踏まえ難しいと判断している。

問 農家から、畑から出た石の捨て場を各地区に一カ所程度確保してほしい要望があるが。

農林課長 想定すると、有料化や、常に現地の確認や整理が伴って行くため、村での設置は困難。



北原 貴穂 議員

インフラ

問 汐と村道更に整備促進を

答 住民の要望に応えていく

問 これまでの成果と不十分な点は。

問 汐の整備は。改善を求められている。

村長 要望をくみ上げ計画して実施している。

建設水道課長 要望に沿う形を取りたい。

農林課長 地元の要望で一ノ瀬・坪之端・三ヶ村汐の頭首工、坪之端・三ヶ村汐の管理道の復旧整備ができたのは大きな成果。

問 早い対応と抜本的

農林課長 農道の舗装も実施に向け計画中。

問 村道の整備は。

観光資源

問 舟山十字路トイレ設置は

答 必要ない

問 舟山十字路仮設トイレ試験設置、関心と感謝を実感したが村としての検証は。

村長 議員からの提言で試験設置した。

問 設置期間延長、アンケートなど必要では

商工観光課長 調査は必要ない。

問 やらないということなのか。

商工観光課長 必要ないと考える。

産業振興

問 ワイン振興策と課題は

答 研究会立ち上げ検討する

問 令和2年12月にワイン特区の認定を受けた。また原村・茅野市・富士見町9名の生産者は、ぶどう栽培や醸造所建設、ワインの販売など既に動き出している状況だ。産地化に向け今後の推進具体策は。

品種の選定・栽培技術の普及に力を入れている。ワイン産地化で観光振興にも繋げていきたい。

問 産地化には、知名度アップが欠かせない。

3市町村統一のワイン開発、ブランド化が必要と認識するが。農林課長 栽培のマニュアル化など、生産者や醸造者と研究会を立ち上げ進めて行く。



森山 岩光 議員

支援施設

問 開設後の運営内容は

答 原っ子広場は継続する

問 子ども子育て支援センター開設に向け、住民の期待値は大きいと認識する。開設後の運営内容と方針は。

教育長 子どもの居場所・交流・相談の3つの事業が基本。大きな課題となっていた原っ子広場は、放課後の子どもの居場所として、現在の中央公民館からセンターへ移して運営し、利用状況や利用者、子供・保護者の新たな要望など受止めながら、今後の方向性について検討していく。

予算編成

問 令和5年度の重点課題は

答 主な項目について答える

問 令和5年度は、子ども子育て支援センターの完成と、産休明けから預けられる乳幼児保育園が認可園となり、子育てしやすい村になっていくあらたな年度令和5年度村政課に主たる考え思いは何か。

健康はらむら21の推進。民生児童委員さんにはコロナ禍の中で出来ない状況ですが高齢者の見守り、健康維持の推進、母子健康包括支援を推進していく。

問 老々介護の現状についてはどう考える。

村長 大きな問題であり取り組みは必要。



平出 敏廣 議員

保健福祉

問 難聴者補聴器購入に村補助

答 支援の必要性研究を進める

問 補聴器購入補助を実施する自治体が増えている。難聴は不便であり、鬱や認知症の危険因子のひとつとも言われている。当村でも行って欲しいと住民要望もあるので検討を。

保健福祉課長 身体障害者手帳の交付を受けている方と18歳未満の軽度・中度の難聴児の方に助成をしている。高齢者から加齢による聞き取りづらさの相談もあり村としてどのような形で支援をする必要性も含め研究を進める。

若者応援

問 お祝い支給制度の新設を

答 出産、新生活支援を予定

問 出産、入学、18歳成人など、成長段階に合わせた子どもお祝い支給制度を新設しては。

総務課長 結婚新生活支援事業補助金の創設を検討。住宅取得、リフォーム、住宅貸借及び引越費用、夫婦共に29歳以下は上限50万円、39歳以下は上限30万円を予定。

問 高校生もお弁当食材、通学費など、物価高騰の影響を受けている。目を向けては。

子ども課長 一律補助で、考えて行くことはできるかもしれない。

総務課長 安心して出産や子育てができるよう、経済的な負担軽減と子どもの健全な育成が図られることを目的とした出産祝い金制度を、令和5年度に向けて検討。子ども1人につき10万円を予定。

資源循環



宮坂 早苗 議員

問 リユースの常時拠点整備を

答 今後考えていく

問 空き家にできない課題として、使えるものの片付けが進まないために空けられないという課題がある。使えるものを使いたい人につなげるためのリユース常時拠点整備を考えると。

建設水道課長 全国的に、家財の処分に補助を出している自治体はある。自治体が、持ち込まれたリサイクル品を、売りにだせるか、見分けることは大変。現時点では考えていないが、今後考えて行く。

農業

問 資材高騰による再助成を

答 国県の動向を見たい

問 灯油高騰により農家へ使用量に応じた再度の補助を。

農林課長 肥料代の高騰については、国県で支援金を進めている。村では今は独自のものは考えていないが、本年度以降、資材、経費等価格高騰の状況を注視しながら検討したい。

農林課長 今は農業生産資材と燃油等の高騰に対して農業者緊急支援給付金支給事業で対応しているので、単独の品目についての補助は考えていない。

問 農業者緊急支援給付金支給事業（現在の3%、上限70万円の補助金。）をバージョンアップした、第3弾補助金を実施したらどうか。

教育設備



百瀬 嘉徳 議員

問 太陽光発電設備の設置を

答 研究をして進めたい

問 ゼロカーボン施策の観点から、原小中学校へのエアコン設置には、広い教育関係施設の屋根に、太陽光発電設備を設置して利用したかどうか。

子ども課長 公共施設での太陽光発電設備設置を国でも強力に進めている。今年度村でも設置可能性調査を実施している。今後は設置も検討して行く。子育て支援センターは設置する。

子育て

問 子育て支援策の充実を

答 センター事業として検討

問 ファミリーサポート事業を検討しては。

保健福祉課長 6市町

教育長 保護者による相互利用のほか、子育てがひと段落されている有志の方による支え手確保も視野に入れながら子ども・子育て支援センターを拠点として制度を検討していく。

問 母子手帳アプリを導入しては。

子育て

村内では岡谷、富士見、下諏訪町で導入されている。課題としては登録が半分程度との事であるか、アプリと紙媒体の併用による職員の負担増があげられる。厚生労働省においても母子健康手帳を含む母子保健情報の電子化について検討を進めているので国の方針も踏まえて導入を検討していく。

問 廃止か継続かで情報が錯綜している。継続すべきと考えるが。

子ども課長 令和5年度の原っ子広場は拠点を子ども子育て支援センターに移して継続する。合わせて短時間の迎え待ちに使用したい子は現在の中央公民館の一室、体を動かしたい子は社会体育館小学校の校庭、静かに勉強をしたい子は図書館の整備する閲覧室といったようにそれぞれの過ごし方に合わせた場所を

村長 非常に有効なツールであると報告があった。詳細は担当課長より。



半田 裕 議員

問 原っ子広場事業の継続を

答 センターにて継続する

子ども課長 令和5年度の原っ子広場は拠点を子ども子育て支援センターに移して継続する。合わせて短時間の迎え待ちに使用したい子は現在の中央公民館の一室、体を動かしたい子は社会体育館小学校の校庭、静かに勉強をしたい子は図書館の整備する閲覧室といったようにそれぞれの過ごし方に合わせた場所を

情報公開

問 戦略的な移住施策を

答 生産人口増に取り組む

問 「村が特に求める移住者像」を明確にし、戦略的に事業を進める必要があるのでは。

村長 2015年に82・7%だった原村の従属人口指数（生産年齢人口が年少・老年人口をどれだけ扶養しているかを示した指数）が2045年には137%になるとの試算がある。そのような状況なので、人口・移住政策においては、いかに生産人口の移住受け入れを行っていくかが大きな命題であり、そのための取り組みを行っていく。

問 「住む場所がない」という移住希望者の声を聞く。住宅不足解消の施策は。

村長 空き家活用に取

り取り組む。村外居住者所有の土地・物件が相当数ある。これまで村内にだけ示していた空き家活用の案内を、固定資産税の納税通知書に同封し、広報していく予定で調整中。

事業支援



松下 浩史 議員

問 補助事業へ支援の仕組みを

答 商工会と協力しながら

問 国・県の行う補助事業では、補助金は事業完了後の後払い。補助金を除く自己資金分は確保できても事業費総額の確保が難しく、補助事業に手を挙げにくい。補助金分の立替えや支援の仕組みを検討できないか。

村長 村が立替えることはできない。原村中小企業振興資金や融資を利用してもらい、保証料等を村で負担しての事業展開というのが良い方法。商工会と協力して進めていきたい。



佐宗 利江 議員

問 まるごと収穫祭の開始は
答 商工会へ開催依頼している

収穫祭

問 保健保養地への住宅の建設を抑制し、中心地周辺に移住者を呼び込むために都市計画の制定を。諏訪圏内5市町が制定している。建設水道課長 村として考えていくことは必要だ。移住、農業などの政策的なものも絡む。議論を深め今ある環境保全条例を発展させるなど慎重に進め必要であれば考えたい。

問 基幹産業である農業を中心とした優れたイベントだ。心待ちにしている人もいる。高齢化、予算、会場、コロナ等の問題により中止になっているが、観光地である当村においてイベントは重要で、村としても補助金以外の関りをお願いしたい。商工会ではもう開催しないと聞いているが今後について。

村長 村としては全面的に協力するので、商工会長へ「ぜひやりましょう」と申入れしてある。

都市計画

問 問題の解決に都市計画を

答 慎重に議論を進めていく

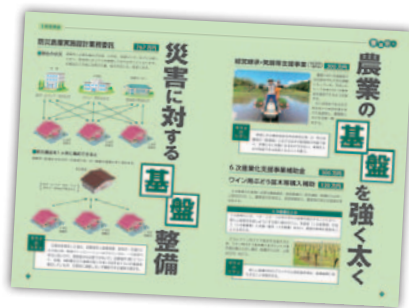
村長 ベターな方向を関連団体の知恵を借り組織を作り検討する。

問 住宅地の確保は。中心地にも近い、第一つがね東側一帯、やつがね公民館下一帯が

村長 まずは空き家の利活用を進めている。村所有の土地もあり、現在、新たな住宅地の確保は計画にはない。

村長 耕作放棄地となっている。適地ではないか。

議会だよりモニターを募集します



住民の皆様から意見や感想など幅広くお聴きし、開かれた議会、手に取ってもらえる議会だよりを目指し、「議会だよりモニター」を募集します。

■モニターの仕事

- 議会だよりについて意見を述べる
- アンケート調査に協力
- モニター連絡会議に出席 など

■資格 村内にお住まいの中学生以上の方

■人数 15人以内

■任期 2年

■締切 令和5年3月20日(月)

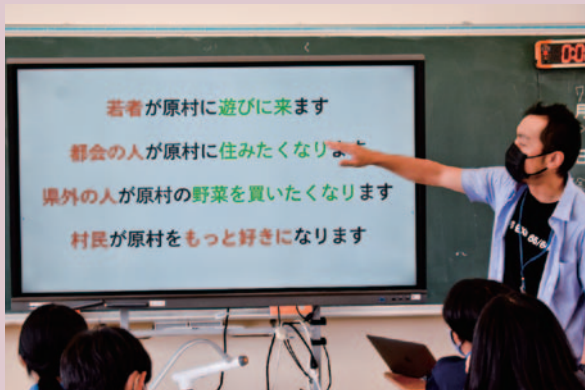
詳しくは議会ホームページまたは事務局までお問い合わせください。

原村を語る

原村を知る・学ぶ・地域と生きる、という学びを3年間通して行う原中学校の「原村学」。集大成としての中学生議会は今年も新型コロナウイルスの影響で開催できませんでしたが、1月27日、中学校を会場にして意見交換の場を持ちました。

4つのテーマそれぞれに取り組んだ中学生からは疑問や意見が出され、議員はそれらに答えながら、一緒に今後の村づくりを考える機会となりました。

原村 PR 講座



アドバイスをもらいながら原村のCMづくり

村をPRするためのCM制作やSNSに情報発信。制作過程で暮らす人々が「どんな村になってほしい」と思っているかが知りたくなった。

生徒から 原村循環バスセロリン号をラッピングして目立つようにしてはどうでしょう。セロリン号がうまく活用されていないのではないかと感じます。中央病院経由や駅への本数を増やして、時刻表ももっと見やすくしてほしいです。

議員より (北原・百瀬) ラッピングについては、良い考えだと思います。村の交通のよりよいあり方を検討しようと、現在AI乗合オンデマンド交通「のらぞあ」の実証実験を行っています。多くの人や高校生も利用してくれれば、本数ももっと増えると思います。時刻表は村のお知らせとして、「広報はら」に挟んで全戸に配布しています。路線の色分けなどしていますが、確かに字が見づらいかもしれませんね。見やすい時刻表については、検討が必要だと思います。

原村史講座



麻紐を編んでハンモックをつくる

諏訪大社の神話、中学生がくつろげる場所作り、原村産の材料を使ったお菓子作りなど、村に関わるもので興味を持ったことを調べた。

生徒から 「ハンモックを設置してストレス解消の場とする」「村の材料を使ったお菓子を作る」これらのアイデアをまとめて、プールの跡地利用に釣り堀カフェを考えました。何かをつくるにはお金のこと考えなくてははいけませんね。

議員より (佐宗・宮坂紀博) プール跡地利用について、有効利用でとても良いと思います。自分たちでリノベーションするということのもいいのではないのでしょうか。材料の提供を呼び掛けるといいと思いますが、どういったルートでできるか考える必要があります。何かの事業を行うには予算化をするのですが、水を溜める施設は多額の費用が掛かるので、よく検討・調査してみた方がよさそうですね。例えばチョウザメの養殖はお勧めですが専門的な知識が必要みたいです。



中学生と



ワイン講座



ソムリエからテイस्टングを学ぶ

村が特産品を目指しているワインについて、ぶどうの栽培や醸造を学ぶ。中庭では「ピノ・ノワール」を育て、自分たちの手で収穫した。

生徒から 中学生ワインを生かしてどのように村をPRしていけるでしょうか。ワインで作ったお菓子の展示・ワインの飲み比べ・ワインに合う料理レシピの募集、二十歳を祝う会の時にワインを飲んでもらう、などの考えはありますか。

議員より (森山・平出) 中学生の皆さんが育てたぶどうからワインが作られ、そのことを多くの人たちが知り、関心を持ってもらう事で原村のワイン産地化につながっていくと思います。今後ワインへの取り組みをどのようにPRしていくかについては、原村学「PR講座」の仲間と一緒に考えてみてはどうでしょうか。イベントとコラボしたPR方法について可能なかどうかは、私たちが研究して村に提言していきたいと思っています。

SDGs 講座



発展途上国に送る古着を集めた

アルミ缶、衣服の収集、ごみ拾いを行いながら、身近なごみ問題や森林保全、さらには地球温暖化など自分たちを取り巻く環境について考えた。

生徒から 古着を集め続けることができる仕組みとして、村内に回収ボックスなど置く事はできないでしょうか。中学校3年間でほぼ着ていない制服が綺麗なまま残っていますが、後輩たちに活用してもらえたらいいと思います。

議員より (宮坂早苗・半田) きれいな状態の制服を後輩が活用できる仕組みはとても良いですね。6年生が採寸する時期より前に卒業後に寄付してくれる生徒さんを募ることで、寄付する仕組みができるのではないのでしょうか。古着の回収ボックスをすぐに設置するのは難しいかもしれませんが、おいでなして原宿の交換会や、消費者の会のバザー、ハラカツなどを中学生の皆さんにも周知して、古着の有効活用に繋げてもらえればと思います。

みなさんの
の

声を聴かせてください

「住民に開かれた議会」をめざし、「広聴」の機会づくりに努めます。



大内 愛泉 さん (原中学校 3年)

村民同士の結びつきを強めるために

私は、原村の村民同士の交流をもっと深めることができれば、より良い原村になれると思います。なぜなら、一人の力では解決しにくいことも、大勢いればたくさんの人の意見を取り入れた素晴らしい案が出て解決につながって行くと思います。そのためには、小学生くらいからお年寄が一緒になって活動を行うことが必要だと思っています。なので、中央公民館などで集まり、気軽に参加して話し合うことのできる場をもっと増やして行ってほしいです。

このように様々な年齢層の人たちが話し合うことで、世界規模の問題にも取り組み、より良い原村を造って行くことができるのではないのでしょうか。



脇田 みなも さん (原中学校 3年)

未来の原村

私は、原村をもっと人が訪れる村にしたい。そのための活動に、私たち中学生も参加していく必要があると原村学を通して思った。私が選択したワイン講座では、ぶどうの栽培から始まりワインが造られる過程について学んだ。そうしていくうちに、ワインをセロリのように、日本そして世界にほこれる一つの特産物にできたらいいと思った。中学生だけではお酒を造るのは難しいと思う。そこで、村の人と協力してワインを造れば人の交流にもつながり良いのではと思った。中学生が造ったワインは話題になると思う。話題になればそれを求めて今よりもっと多くの人が原村にきてくれる。人が来ることは村の活性化につながると思う。

編集後記

新型コロナウイルスの感染が始まってもう3年になります。色々な行事が感染防止のため中止や延期になりました。さらに、ロシアによるウクライナ戦争、円安、物価の上昇や電気料金の値上げ等と新たな事態が発生し、世の中が目まぐるしく動いています。

議会だよりも世の中の状況や、それに対して議会の見た対応等を発信して来ましたが、一昨年から見易い様にカラー化や、ページ数を12から16に増やす等改善を図りました。議会による広聴活動の一環でもある意見交換会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催しておりませんが、議会だよりの中では、住民の皆様にご協力いただき、ご意見を載せることを始めています。本議会、第19期も残すところ4月までですが、より良い「議会だより」を目指して発行できればと思っています。議会だよりモニターも募集していますので、ご応募をお願いします。(百瀬記)

議会広報・広聴特別委員会

| | | | | |
|----|----|----|------|-----|
| 委員 | 委員 | 委員 | 副委員長 | 委員長 |
| 平出 | 松下 | 森山 | 百瀬 | 宮坂 |
| 敏廣 | 浩史 | 岩光 | 嘉徳 | 早苗 |

議会の傍聴に
お出かけください

次の定例会は

2月24日(金)

開会予定です

- ・役場2階総務課前で受付後、傍聴席にお越しください。
- ・会期中は委員会の傍聴もできます。

【問い合わせ】

議会事務局 ☎0266-79-7951